

平成 22 年度 第 3 回会計学教育 FD/ICT 活用研究委員会 議事概要

- I. 日時 : 平成 22 年 11 月 20 日 (土) 午後 17 時 00 分から 19 時 00 分まで
- II. 会場 : 名古屋学院大学 さかえサテライト
- III. 出席者 : 岸田委員長、椎名副委員長、金川委員、松本委員、阿部委員
(事務局) 井端事務局長、森下主幹

IV. 議事概要

1. 検討内容

まず、今回のテーマである、学士力の実現を目指すための ICT の効果的な活用モデルについて再度説明ならびに議論がなされた。

当日配布資料を参考に大学教育の現状を踏まえながら、5 年後を見据えた授業モデルの開発が提唱された。大胆な授業デザインを構築し、そのどの部分に ICT を活用すべきかを中心に今後の議論を進めていくことが提案された。これに対し、大学ごとに教育環境や設備等に大きな差があり、理想的なシステムが構築できても、それを特定の大学に移植するのは相当に難しく、どのように議論を広めていけばよいのかという意見が出された。また学士力やその到達目標との関連で、委員会の議論の結果をどのように各大学の教育に浸透させるべきか、学内での意思疎通も難しい昨今、学外で知識の共有を進めることが可能かとの指摘もあった。理想論をどのように現場レベルで実現可能なかたちにするのか、その具体的な方策が描きにくい、個々の事例で展開できるかとの指摘もあり、引き続き議論をしていくこととなった。

続いて授業デザインについて議論が行われた。「管理会計」、「会計学総論」の報告において ICT 活用モデルが紹介されたが、特定の手法を強要するようなモデルではなく、たとえばグループワークの多用、産学連携、振り返り学習、学びの成果の発信等、学ぶ方、教える方がいろんな形で協力しながら授業が展開できるような授業デザイン、すなわち授業手法を提案することが了承された。ただし学生の学力低下は著しく、理想と現実とのギャップを埋めるべくどのように対処すべきかを考えることの必要性も指摘された。また授業デザインの構築においては、期待される効果に学士力を入れるべきである、コミュニケーション能力等の育成、小手先のモデルではなく考えさせる教育に重点を置くべきである等の提案がなされた。また学生にアンケートを実施し、そこから授業デザインを構築する方法も提案された。以上の議論も次回に継続されることとなった。

2. 次回までの宿題

- (1) 会計学総論
- (2) 会計情報システム
- (3) 管理会計

の各科目について、具体的に 15 回の授業シラバスを想定し、どの部分に ICT を活用するか、どのような方法で利用するかを具体的に提案する。

3. 次回の委員会

日時：2011 年 2 月 7 日 10 時 00 分～12 時 00 分

場所：私立大学情報教育協会事務局 会議室

以上